

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2017-12-15

APM news 183

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第40回美術館大学 11月4日(土)pm3:00~pm4:30 / 参加者:49名 / 講師:秋山孝、高橋庸平
「日本ブックデザイン賞2017について」



2017年度、秋山孝ポスター美術館長岡(APM)主催のコンペティションである「日本ブックデザイン賞(JBD)2017」を開催した。2017年度より新設された部門もあり、年々進化している。JBD2017では、応募総数552点(一般の部139点、学生の部413点)の作品が集まった。展覧会ではその中から、厳正な審査を経て選出された252点の入賞・入選作品をAPMとAPM・蔵の2ヶ所で展示した。第40回美術館大学ではJBD2017について、審査委員長を務めた秋山孝館長と、一般の部ブックジャケット・四六判部門で北越紀州製紙株式会社賞を受賞した高橋庸平氏から話を伺った。

秋山館長は高橋氏に今回3回目を迎えたJBDの特徴は何だと考えるかと質問した。高橋氏は、セルフパブリッシング部門にあると答えた。セルフパブリッシングとは、企画・編集・制作の工程を自ら行った自己出版の本であり、「自ら働きかけるところの強い部門である」と高橋氏は語った。ブックデザインの歴史上、アーティストが本のデザイン全体を行うことは多々あることだが、他のコンペティションではこのセルフパブリッシング部門に当たるものを見かけない。むしろ既に出版され市場に流通しているもの(JBDでは「パブリッシング部門」に相当)を審査することが多いという。そういったことから、作品自体の魅力という点からも、セルフパブリッシング部門はJBDが誇る特徴であると高橋氏は語った。

次に秋山館長は、高橋氏が個人的に一番評価の高い作品はどれかと尋ねた。高橋氏は少々考えた後、JBD2017グランプリを受賞した上清涼太氏の「戦争と平和」をあげた。写真の使い方、文字のデザインなどがセンスよく、何より抽象的な表現にもかかわらず、作品のストーリーを感じさせるというのはすごい、と感想を述べた。トルストイの作品は難解とされており、この「戦争と平和」でも階級の違いや国の違いなど、様々な問題が混じりあって書かれている、そういった「うじうじしたもの」が上清氏の作品の鉛色の空に表れていると、高橋氏は続けた。

最後に秋山館長はJBDを続けていく上で、反省点を洗い出し次回にどう改良していくかが最も大切なことであると述べた。確かにJBDは初回の2015年から、2016年にはパブリッシング部門の追加、2017年には装画部門の新設と、毎回改良を重ねている。応募のためのルールを記した応募要項や、必要事項を記入するエントリーシートも前回の課題をふまえた様式となっている。Webサイトに掲載された受賞者コメントのページも、更に魅力的なコンテンツとなるようにと設けられた。そのように一点一点改良を続けることで、JBDは更に魅力的な、唯一のコンペティションとなることのできるのだと感じた。

(森山奈帆・APM職員)